

— 原著 —

新潟大学歯学部歯学科の新教育課程とその評価

小野和宏¹, 八木 稔¹, 大内章嗣², 魚島勝美³, 林 孝文⁴, 齋藤 功⁵, 興地隆史⁶, 前田健康⁷, 山田好秋⁸¹新潟大学歯学部 口腔生命福祉学科 口腔衛生支援学講座²新潟大学歯学部 口腔生命福祉学科 福祉学講座³新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康科学講座 生体歯科補綴学分野⁴新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面再建学講座 顎顔面放射線学分野⁵新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食環境制御学講座 歯科矯正学分野⁶新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康科学講座 う蝕学分野⁷新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食環境制御学講座 口腔解剖学分野⁸新潟大学

An Evaluation of the New Dental Curriculum for Undergraduates at the Niigata University Faculty of Dentistry

Kazuhiro Ono¹, Minoru Yagi¹, Akitsugu Ohuchi², Katsumi Uoshima³, Takafumi Hayashi⁴,
Isao Saito⁵, Takashi Okiji⁶, Takeyasu Maeda⁷, Yoshiaki Yamada⁸¹Division of Dental Hygiene and Health Promotion, Department of Oral Health and Welfare, Niigata University Faculty of Dentistry²Division of Social Welfare, Department of Oral Health and Welfare, Niigata University Faculty of Dentistry³Division of Bio-prosthetics, Department of Oral Health Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences⁴Division of Oral and Maxillofacial Radiology, Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences⁵Division of Orthodontics, Department of Oral Biological Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences⁶Division of Cariology, Operative Dentistry and Endodontics, Department of Oral Health Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences⁷Division of Oral Anatomy, Department of Oral Biological Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences⁸Niigata University

平成 21 年 3 月 23 日受付 3 月 30 日受理

Key Words : 新潟大学歯学部 (Niigata University Faculty of Dentistry) 歯学教育課程 (Undergraduate Dental Curriculum) 教育評価 (Evaluation) 自己評価 (Self-assessment) 問題発見解決能力 (Problem Discovering / Solving Ability)

Abstract : We have run a new dental curriculum at the Niigata University Faculty of Dentistry since April 2000. The aim of this new curriculum was to create mature dentists effectively through the activation of knowledge curiosity by correlation of three domains, cognitive, psychomotor and affective. We have adopted problem discovering/solving type learning for this purpose. In this investigation, we evaluated this curriculum. Subjects comprised graduates who had studied based upon this new curriculum all the way through for the first time, and graduated in March 2006. We carried out the survey by sending several questionnaires to them one year after graduation when they finished their residency program. We asked them regarding their appreciation of the new curriculum and programs along with their self-assessment of their personal maturation as dentists and learning effects. Reliability of the self-assessments was also investigated in comparison with the evaluation by the instructors during the residency program at the Niigata University Hospital.

The survey was collected from 24 graduates out of 40 (60.0%). The results were as follows:

1. Satisfaction rate of the curriculum was good.
2. Accomplishment of designated aims was generally well and their personal maturation along with their problem discovering / solving abilities was achieved.
3. The graduates developed their ability of evidence based dentistry, problem discovering / solving and responsibility for their decisions.

Taking the above results into consideration, we concluded that our new curriculum is effective to some extent and the revision has been successful.

抄録：新潟大学歯学部歯学科では、2000年度より新教育課程を開始した。新課程は、認知、精神運動、情意3領域の教育を密接に連関させることにより学生の知的好奇心を喚起させ、教育目標とする人材育成を効果的に達成しようとするもので、その方策として問題発見解決型学習を展開している。今回、この課程で学んだ2006年度卒業生を対象としてカリキュラム評価を実施した。卒業後1年が経過した臨床研修修了時に記名式調査用紙を郵送し、カリキュラム・授業に対する満足度について質問した。また、カリキュラムの教育効果に関して、教育目標とする人材への到達度および学習成果の達成度について自己評価を依頼した。なお、新潟大学医歯学総合病院において臨床研修を受けた卒業生に対して、指導歯科医師による教員評価を行い、卒業生の自己評価の信頼性についても検討した。

対象者40名中24名、60.0%から調査用紙の返送があり、以下の結果を得た。

1. カリキュラムに対する学習者の満足度は良好であった。
2. 全般に教育目標への到達度は良好で、卒業生は人間性豊かな人材、問題発見解決型人材へ成長していた。
3. 卒業生は科学的根拠に基づいた歯科医療を実践する力、問題を発見し解決する力、意思決定し自己責任を負う態度の育成がなされていた。

以上から、新課程は一定の教育効果をもち、その目的はある程度、達成されていると考えられた。

【緒 言】

新潟大学歯学部歯学科では、教育目標とする人材育成をより効果的に達成するために、2000年度より新教育課程を開始した。2008年3月までに3回の卒業生を送り出し、新課程は着実に実践されているが、持続的に改善を進めていくためには、学習者がどの程度、目標を実現できたのか的確に把握し、その結果をフィードバックする必要がある。

本稿では、はじめに新課程の概要を述べ、その後、この課程で学んだ卒業生の目標到達度に関する内的な評価を中心としてカリキュラムの当否を問い直してみたい。

【教育改革の背景】

医学・歯学教育の分野では、少子・高齢社会の進展による疾病構造および社会構造の変化、患者や学生のニーズの高度化・多様化、生命科学の急速な発展、教育内容の国際標準化、さらには臨床研修制度の必修化などにもない、学部教育の内容を整理して、臨床研修や生涯学習との円滑な接続を考慮することの必要性が指摘され、その教育目的、内容、方法などについて21世紀を見通した変革を行うことが求められてきた。この一連の流れの中、2001年3月に医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議から「21世紀における医学・歯学

教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—」が報告され、今後の課題と目指すべき目標が明示された¹⁾。この中で、主要な課題として挙げられているのが、過密な記憶偏重教育の見直しと、統合的かつ効果的な教育の実現である。このため、医学・歯学教育の分野では課題探求・問題解決能力の育成が望まれ、この能力が日進月歩で進歩する生命科学のもとで、日々、多様な患者・疾患に対応していくことが求められる医療人としては最低必要条件ともいえる不可欠な資質であると考えられている。

新潟大学歯学部では、このような医学・歯学教育改革の提言がなされる以前より、教員定員削減、3年次編入の開始、入学時学生の学力低下、学生臨床教育用患者の不足、長期欠席者や休学者の増大などの理由から、大学学習法をはじめとした初年次教育の展開、ならびに専門教育の精選化、統合化によるカリキュラム改革の必要性があると判断し、1998年度より教育課程の抜本的な再編に着手し、その際には教育者中心から学習者中心の教育への転換を基本とした。

【教育目標】

新潟大学歯学部歯学科は、教育目標として以下の人材育成を目指すことを掲げている。

1. 患者の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人材
2. 自ら問題を解決できる能力をもつ創造性豊かな人材